

(一社) 大阪金属プレス工業会 インドネシア・ジャカルタ周辺工場視察ツアー報告書

日 時：2015年 3月4日～7日

参加メンバー：(敬称略)

団 長	： プレテック株式会社	代表取締役	多田修
委 員 長	： 株式会社ハヤシ	代表取締役	林秀昭
メ ン ー	： 朝田金属工業株式会社	代表取締役	朝田武志
(50音順)	朝田金属工業株式会社	管理課	大隅誠也
	上田産業株式会社	代表取締役社長	上田整弘
	大阪美鋳工業株式会社	製造部技術課主任	加藤大典
	カネエム工業株式会社	代表取締役社長	島田真輔
	株式会社 寺方工作所	取締役常務(兼)技術部長	寺方郁夫

3月4日

日本時間

AM09:30 関西国際空港集合

PM00:00 ガルーダインドネシア航空GA889便にて出発

現地時間(時差2時間)

PM05:30 インドネシア・ジャカルタ スカルノハッタ国際空港到着

PM06:00 旅行会社のバスにてホテルへ移動(2時間)

PM08:00 サリ・パンパシフィックホテル・ジャカルタに到着

PM08:30 ホテル内レストランにて結団式



3月5日

AM09:30 ジェトロジャカルタ事務所訪問

1) ジェトロジャカルタ事務所

場所：ジャカルタ市内（ホテルから約30分、距離的には数キロメートル）

面談：シニアダイレクター 吉田雄 氏

インドネシアの概況説明：

- ・人口は約2億5千万人（世界第4位）日本の約2倍、島の数は13466。
- ・国土は191万931km²（世界第16位）東西に5110km、国内時差2時間
- ・名目GDPは8703億ドル（2013年世界第16位）
1人当たりのGDPは3531ドル（タイの約半分）
- ・政治・経済の中心はジャワ島に集中している。ジャワ島以外は資源が豊富。
- ・インフラ整備が遅れている。港湾施設の不足、交通渋滞が常態化している。
- ・自動車の日本車普及率は95%、2輪車は99%で日本よりも多い。
- ・国民の90%がイスラム教徒であるがイスラム国家ではない。
- ・他宗教には寛容である。親日国である。イスラム教徒が多い国であるが反IS。



事務所の窓からの眺め

貧富の差が大きい

PM01 : 00 PT.PADOMA SOODE INDONESIA 訪問

2) PT.PADOMA SOODE INDONESIA

場所：ボゴール県ブカシ市（ジャカルタから南東へ約30km、約1時間半）

面談：小山秀行氏（Sales Department Head）

Mr.Robet Ho（President Director）

会社概況：

- ・日系合弁会社、親会社は長野県「株式会社ソーデナガノ」
- ・従業員数：2200名（日本人は2名）
- ・保有プレス機械72台（内サーボプレス機が5台）
- ・成形・切削・アッセンブリまで可能
- ・金型は自社製造
- ・コイン型の振動モーターを自社開発



PM03 : 30 PT.CIDAS SUPRA METALINDO 訪問

3) PT.CIDAS SUPRA METALINDO

場所：ボゴール県 Gunung Putri (ジャカルタから南へ約30km)

面談：Mr.Makizawa Isao (Adviser)

Mr.Adi Dirhamsyah (President Director)

Mr.Budiarso (technical Director)

会社概況：

- ・現地ローカル企業、金型製造からスタート
- ・世界金融危機の時に売上高が激減、公共事業を請け負うようになった。
- ・現在は金型、公共事業の売上げが1：1程度
- ・保有プレス機は500～1500トン



3月6日

AM09:00 PT.PRETEC INDONESIA 訪問

4) PT.PRETEC INDONESIA

場所：インド大成工業団地（ジャカルタから東へ約70km）

面談：三崎康政氏（President Director）

 藪下博氏（Executive Vice President）

会社概況：

- ・日系100%外資企業、親会社は当会ツアー団長の「プレテック株式会社」
- ・2011年会社設立、2012年操業開始
- ・プレス機械35～300トンを9台、MC、ワイヤーカット、3次元CAD他
- ・従業員数29名



AM 11:00 PT. SARI TAKAGI ELOK PRODUK 訪問

5) PT. SARI TAKAGI ELOK PRODUK

場所：ジャバベカ工業団地（ジャカルタより東へ約40km）

面談：吉田康博氏（President Director）

清水明夫氏（Director）

田中修弥氏（General Manager）

会社概況：

- ・日系100%外資企業、親会社は愛知県名古屋市の「高木製作所」
- ・従業員数850名
- ・保有プレス機は45～300トンを101台、溶接機、金型加工機他



PM02 : 30 PT. ITO SEISAKUSHO ARMADA 訪問

6) PT. ITO SEISAKUSHO ARMADA

場所：ボゴール県ブカシ市タンブン（ジャカルタから東へ約20km）

面談：川崎剛司氏（Vice President）

Ms. Putri Dinanti（Marketing Manager）

会社概況：

- ・日系合弁会社、親会社は三重県四日市市の「伊藤製作所」
- ・保有プレス機は45～300トンを10台
- ・金型設備は、MC、ワイヤーカット他



3月7日

AM10:30 PT.BINTANG KINERJA PRATAMA 訪問

7) PT.BINTANG KINERJA PRATAMA

場所：ボゴール県ブカシ市（ジャカルタから南東へ約30km、約1時間半）

面談：Mr.Robert Susanto (Director)

山田武夫氏（元出資者、現PT.PADMA SOODE INDONESIA. Managing Director)

Mr.Julius Fitzgotlieb (PT.PRETEC INDONESIAから通訳として合流)

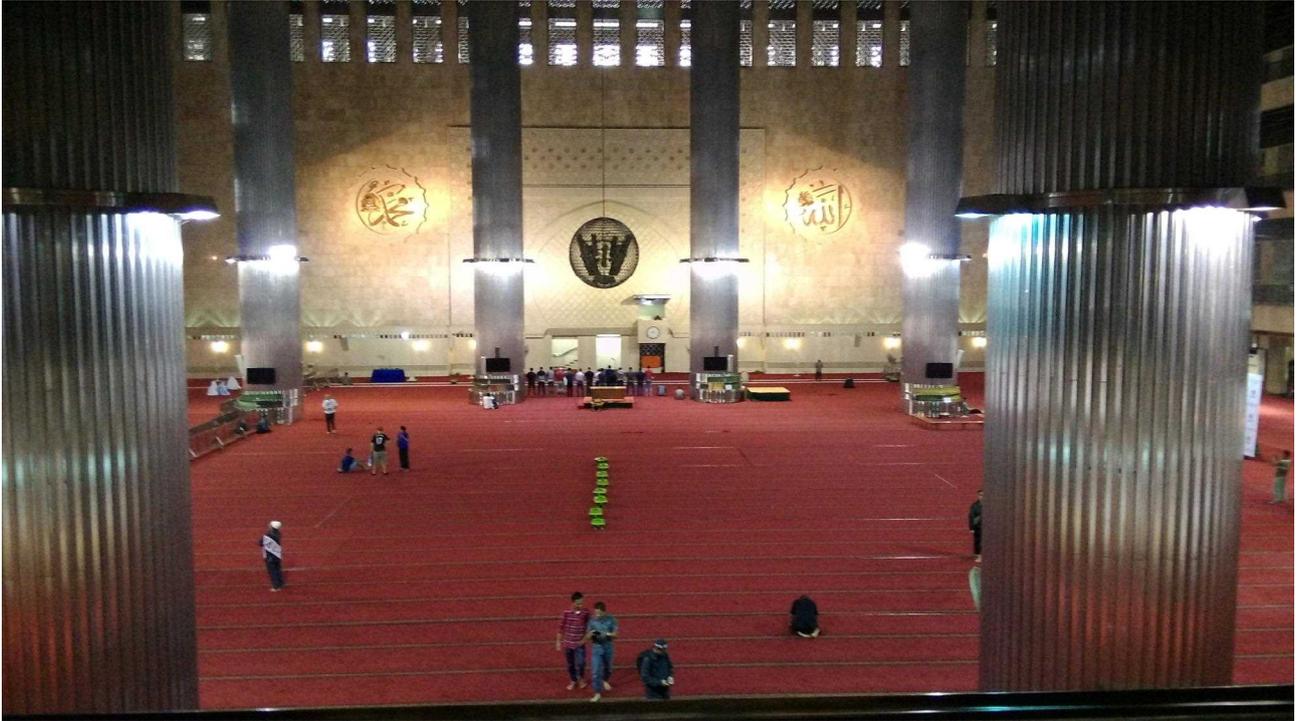
会社概況：

- ・現地ローカル企業、金型製作がメイン。
- ・従業員数50名
- ・設備は日本の中古品を輸入して使っている。
- ・年間売上は200億ルピア（約2億円）金型とプレス品の売上比率1：1



PM04:00 イスティクラル見学

イスティクラル：インドネシア国立モスク、世界最大のイスラム教モスク



PM06:00 ジャカルタ市内レストランで解団式



PM09:00 インドネシア・ジャカルタ スカルノハッタ国際空港到着

PM11:30 ガルーダインドネシア航空GA888便にて日本へ向けて出発

日本時間

3月8日

AM08:30 日本国関西国際空港へ到着

各自で預け手荷物を受け取り後、解散～帰宅

以上

ここからは、各参加メンバーが書いたレポートを掲載します。

2015年 3月13日

プレテック(株) 多田 修

大阪金属プレス工業会インドネシア視察記 「人財がすべて」

まずはこの度無事に視察ツアーを終えることができ夏山代表理事様、業務執行理事様をはじめ、活性化委員会委員の方々、そして中西事務局長には色々とお世話になり厚く御礼申し上げます。また今回は経営者だけでなく2名の一般社員さんにも参加していただいたことに企画した甲斐があったと本当に嬉しく思います。

今回、視察団の団長を仰せつかりその責務を感じながらも、インドネシアの同業他社を見学できる絶好のチャンスと捉え大いに楽しみにしておりましたが、期待以上の成果を得ることができ非常に満足できる視察でした。

訪問した一つ一つの工場見学の感想はさておき、総論的に私の得た成果をお伝えしたいと思います。

- ①ローカル企業の技術力には目を見張るものがあり、特に金型づくりに於いては日本と遜色ないレベルであると感じました。ただ、安全管理面及び品質管理面で言えばまだまだの感が拭えず今後の課題であると思います。とは言え、管理面が向上すれば、たちまち日本のレベルに追い付くことが予想されるので、うかうかしてられないというのがプレテックインドネシアを持つ私としての正直な感想です。
- ②日系企業は日本でもトップクラスのお会社だったので「さすが！」の一言です。品質管理、生産管理面はもとより金型メンテナンスも充実しており、さらに金型づくりに於いても日本流を貫かれ、あらゆる面での力の格差を感じました。
- ③人材育成はどこの国に於いても経営の根幹であることを実感しました。海外では人材の流出が激しいと言われますがインドネシアでも同じ。何もしなければせっかく育てた良い人材が少しでも給与の高い会社に流出するのが現状です。しかし今回訪問させていただいたほぼ全てのお会社が給与の高さで引き止めるのではなく、いかに会社に対する愛着を持たせるか、言い換えればいかに一人ひとりの仕事に対するモチベーションを高めるか、というところに力を注いでおられました。

当たり前のことかもしれませんが、人材育成に成功するかどうかが企業として継続的に活動する最大の課題であることを今回の視察で思い知らされました。インドネシアにはまだまだビジネスチャンス（仕事）はいくらでもあり、極端な言い方をすれば何もしなくても仕事は舞い込んできます。そんな中で益々激しくなってくる競争に打ち勝つには兎にも角にも『人財』が全てであることを痛感しました。日本でもインドネシアでもそれを肝に銘じて成長したいと強く思いながら帰国の途に着きました。

以上

平成27年 3月13日

大阪金属プレス工業会 インドネシア ジャカルタ視察ツアー 参加レポート

大阪金属プレス工業会活性化委員会委員長
株式会社ハヤシ 代表取締役 林 秀昭

今回のインドネシアのプレス工場・金型工場の視察ツアーの企画は、大阪金属プレス工業会活性化委員会の中で立案実施されました。

青年部では中国やタイ等に何度か視察旅行を行いました。大阪金属プレス工業会としては50年近い歴史の中で、初めてのツアーとなりました。

インドネシアを視察先に選んだ理由は、一つ目は中国・韓国・台湾・タイ等は、それぞれ会員企業が単独で行かれたり、また各種団体でツアーを組まれたりして行かれています。インドネシアとなると様々な事情でなかなか行けないと思ったからです。

二つ目は、インドネシアが急速な経済発展しており、その中でもモータリゼーションが起これ、国内での車の生産が拡大し、多くの日本の自動車メーカー、そして1次2次ベンダーが進出しているからです。

三つ目は、会員企業で今回の団長であるプレテックさんも、インドネシアに進出されているので、その工場を見せて頂きたかったからです。

そして四つ目に、その急速に発展しているジャカルタを訪れ、経済や街並みがどうなっているのかを肌で感じる事が重要だと思ったからです。

日本の製造業は報道などでは円安で国内回帰など報じたりしていますが、現実には車や家電製品は現地生産現地調達を加速させながら進めています。

その様な中で、金属プレス加工業はまさにその渦中にあります。しかしながらなかなか中小企業では海外に進出するのは、資金的にも人的にも大変です。よく「出るも地獄、残るも地獄」と言われてきました。

今回のツアーに参加したメンバーは、現地に行く事でそれを肌で感じ、「これからは海外だ」、いや「やはり自社の事業構造なら国内だ」と、自社の今後の経営の判断の一助になったのではないかと考えています。

最後に、今回のツアーを開催するにあたり多大なるご尽力を頂いた多田修様と、ツアー実施できる事の出来た残り7名の参加メンバーに心より感謝申し上げます。

以上

2015年 3月19日
朝田金属工業株式会社 朝田武志

今回のインドネシア・ジャカルタ視察ツアーについて

大阪金属プレス工業会活性化委員会で、今回のツアーの企画をいただいたときに、当社の役員に、出来れば社員を参加させて勉強させたいと相談し、弊社の大隅誠也と一緒に参加させることになりました。

私自身が若い頃から、会社からタイ、中国、韓国の工場を見学させてもらい、その時点では、半分観光気分で参加させてもらっていたことを思い出しました。27年前に松下電工へ出向していたとき、当時の弊社社長が松下電工タイ工場の式典へ出席するのについて行き、ローカルの工場の見学させてもらったことや、伊吹産業さんのツアーに参加させてもらったこと、元西原金属の故小西社長が企画された上海工場見学に参加させてもらったこと、香港へ赴任していた頃に定期的に訪タイしたこと、22年前からの中国の状況を自身の目で見ていたこと等が、今になって、現在の自分にとって大変な財産になっていることを痛感しているからです。

今のインドネシアやASEAN諸国を見ておくことは将来に必ず役に立ちます。来年以降も海外研修を企画する予定ですので、会員の皆様には、経営者だけではなく、是非にも、幹部候補社員の教育訓練の一環として活用してください。

今回は、団長の多田さんのお骨折りにより、素晴らしい企画となりました。また、海外研修を実行しようと発案された活性化委員長のエリンさんのお二人には、心より感謝しています。

インドネシアの実力に関して、思ったことを述べさせていただきます。日系企業に関しては「流石」の文字が当てはまります。やはり日本の技術と管理は世界で通用します。今回、驚異に感じたのは現地ローカル企業です。技術力は日本のそれに引けを取りません。工場内もきれいに整理整頓され5S活動が行き届いている印象を受けました。当社よりもきれいな工場でした。狭いことを言い訳にはいけないと肝に銘じました。上から視線でうかうか見ていると、簡単に追い抜かれてしまいます。問題点として、目に映ったのは「安全対策と安全意識」「社員教育」でした。安全装置が無いプレス機がほとんどで、作業方法もヒヤヒヤしながら見ていました。製品の扱いも人によっては、放り投げている者もいて、自分が何を作っているのかを理解していないようでした。

人の振り見て我が振り直せで、当社の改善のヒントとして参考にさせていただきます。

以上

2015/03/14

朝田金属工業(株) 大隅誠也

インドネシア工場視察ツアー感想文

今回、初めて視察ツアーに参加させていただき、また初めて訪問させていただきましたジャカルタでしたが、とても意義のある視察ツアーでした。

最初はインドネシア自体のお国事情もあいまいなまま参加させていただいたのですが、初日にご訪問させていただきましたJETRO様にてインドネシアの内情及び国際事情などをいろいろお伺いし、驚きの連続でありました。

国土全長がアメリカ大陸よりも長いこと、13000以上もの島で構成されていることなど、自分で持っていた印象と全く異なっておりました。

原油生産国でありながら同輸入にも頼っていること、国内車の9割以上が日本車であること、また日系企業含めここ数年の間に車関係の企業が急速に増えてきていること、に伴う生産技術的な向上も目の当たりにでき、大変驚きを感じました。

政治的な面に関しましても、長く続いた政権の交代による、新しい政権に対する期待と不安の中で、イスラムの教えを守り、懸命に生活している国民性にも感銘を受けつつも、街をみれば大都会の一步中に入ればまだまだ東南アジアの実情がうかがえる街並みが存在し、様々な貧富の差や経済事情の実態も感じられることができました（このあたりは私がよく訪問する同じ東南アジアのタイもベトナムも同じようなものですが。。。）

また、実際の工場視察の方ですが、視察中も皆様もお話されておられた通り、交通事情が最悪で渋滞の連続でしたが、多田社長様の絶妙なご日程お時間設定ご配分により、限られた日数の中で多くの企業様をご訪問させていただくことができ、大変感謝いたしております。

訪問させていただきました企業様の方も、日系企業様はもちろんの事、ローカル企業様におかれましても大変技術力が高く、絞り加工にしましても、難易度の高い加工製品を実際に加工供給されておられたローカル企業様もおられ、大変驚きを感じると共に危機感も覚ええました。

また弊社の方は同じ車部品といいましても小型部品ばかりを扱っておりますので、今回車の大型部品加工の現場を視察でき設備や金型の大きさにビックリいたしました。特に車のドアパネルなどあまりの規模の大きさに驚きを隠せませんでした。

この視察ツアーを通し、私自身も海外企業の技術レベルに驚きと危機感を感じられたのが一番の感想で、日本企業としてさらに技術的にも管理面においても、継続的にさらに頑張らないといけないと痛感いたしました。

最後に視察ツアーで大変お世話になりました各社長様をはじめメンバー様また最終日までいろいろお世話いただきましたガイドの方に厚く御礼申し上げます。有難う御座いました。

以上

インドネシア海外視察ツアー 感想

大阪美錠工業株式会社
製造部技術課
加藤 大典

まず初めに参加された皆様に、特別な時間・楽しい時間をご一緒させて頂いた事を大変有難く思い感謝申し上げます。

また会社の代表の方々が、一従業員の私に気さくに話しかけ気遣って頂いた事に大変感銘を受けました。会社の代表になるということは、人としても素晴らしい人格を形成する事だと痛感し、私も人として少しでも素晴らしい人格になれるよう今後心がけていきたいと思いました。

今回、インドネシアの日系企業、ローカル企業を現地に行って直に観させて頂いたことは日本国内の工場しか観た事の無かった私には、大変刺激的な体験になりました。

日本国内の工場は自動化が進み、人より機械が主役という印象でしたが、インドネシアではまだまだ人が主役で、昔の日本もこんな感じだったのかなあと感慨無量になりました。

そのため、各会社がどれだけインドネシアにおいて機械の自動化を進めておられるのか、人のコストと機械設備のコストは詳しく分かりませんが、今の所得水準だと人の作業をどれだけ行うのかという事を実際に現地で見学させて頂いて大変勉強になりました。

さらに、インドネシアの給与所得の上昇によって、今後自動化や改善が進みインドネシア独自のシステム（日本のカンバン方式のような）等が生まれ、世界を席卷する可能性もあると思うと、インドネシアがどの様に変化していくのかとても楽しみです。

また、海外展開を考えられておられる会社に限らず、弊社の様な海外展開を考えていない会社においても、現地の習慣・慣習・宗教・渋滞状況などを直に見る事ができ参考になりました。

最後に、今回の見学会で東南アジアの発展のスピードに驚かされました。ローカル企業でも日本の中小企業に負けない技術をどんどん身に付けており、安くて高品質な製品が今後もっともっと出てくるのかと思うと、日本では特異な技術を身に付けないと淘汰されてしまうと痛感し、技術習得の更なる向上にむけ励みになりました。

この様な貴重な経験・時間を過ごさせて頂き有難うございました。

以上

インドネシア視察ツアーを振り返って

カネエム工業株式会社
島田真輔

昨年11月に行われた国内工場見学会（愛知県）バスツアーは社員と一緒に参加させて頂きましたが、とても貴重な機会で勉強になりましたので、今回のインドネシアジャカルタ視察ツアーにも2億5千万人という世界第4位の人口で成長が著しいと言われている国を是非とも体感してみたいという思いで参加することを決めました。

視察ツアーは現地に到着した翌日、JETROさんへの訪問からスタートしました。JETROさんではインドネシアについての基本的な情報をととても分かりやすく説明して頂きましたので、その後、3日間で日系企業4社とローカル企業2社の見学する前のインドネシア情報として非常にためになるものでした。インドネシアは世界で最も交通渋滞が激しいと聞いており、今回の工場見学の日程はかなりハードと思っていましたが、全ての視察先に遅延することなく予定通りに到着することが出来ました。また、工場見学先も自動車関係を中心に電気、電子関係と多岐に渡り、何れの工場もそれぞれに独自性を持って工場経営をされているところばかりでしたので、とても効率よく有意義な視察ツアーとなりました。

インドネシアでの工場経営においては現地での資材調達の問題や高い離職率による人材育成の難しさと合わせて、総人口の9割がイスラム教徒であるため工場内にお祈りの場所を設ける必要もあり他のアジアの国とは違った困難があると感じましたが、高木製作所さんなどは現地社員の家族も参加する小旅行やイベントを定期的で開催することなどで社員の心を掴みながら現地に溶け込んで発展されているようでした。日本だけではなく海外においても経営者と社員が心を通わせ強固な信頼関係を築けるかが一番重要な点であると感じました。また、最終日に訪問したローカル企業は日本人技術者の支援も受けながら、愚直で真摯なモノづくりを実践されており、非常に精度の高いプレス製品を作られていました。交通インフラの整っていないデコボコ道の先に位置するローカル企業でしたので、「こんなところでも」ととても驚きましたが、日本でのモノづくりも負けてはいけないという思いも強く持ちました。

今回の視察ツアーの参加者は総勢8人と少人数ではありましたが、逆に少人数ということもあり参加者全員が各工場見学先の方と気兼ねすることなく活発な質疑応答、対話をすることが出来たように思います。また、海外視察ツアーの良いところの一つに、寝食をともにすることで参加者同士の親睦を深めることが出来るということがあります。今回の視察ツアーでも初めてお会いする方もおられましたし、経営者だけでなく社員の方も参加されていましたが、ご一緒させて頂いた皆様がそれぞれに魅力的な方でしたのでとても有意義な話が出る貴重な機会となりました。

最後に今回のインドネシア視察ツアーにおいて日程も見学先も見事なコーディネートして頂いたプレテック株式会社の多田社長に感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上

大阪金属プレス工業会 インドネシア・ジャカルタ視察ツアー 感想文

株式会社 寺方工作所 取締役常務（兼）技術部長 寺方郁夫

飛行場からジャカルタ市内のホテルに行くのに何時間もかかってしまった、インフラ整備で市内の地下鉄工事をしているが工事の結果1車線減るため渋滞がすごいことになっていた、午後9時ころでも渋滞しておりこの中の通勤移動は大変だと思いました。翌日からの工場視察は渋滞の中をトロトロと町はずれの悪路でガンガンお尻を叩かれながらの移動でした、車窓から見える町は車が走れるような脇道裏道が殆どないこれが渋滞悪路の原因だなど。今回の視察ツアーで感じたのはローカルの技術が思っていた以上であったこと、またサーボでない小型プレスは台湾の協易機械SEYIがローカル・日系問わず入っておりアイダと比較しても遜色はないとのことでした。インドネシア進出はローカルの実力があるので顧客があらかじめある状態で技術的な優位性も維持しての進出でないが無理で行けばなんとかなるしきの進出は難しい。今回インドネシアに行って出した私個人の結論は「寺方工作所は技術を磨き日本で頑張る」ことです。今回の視察が日系・ローカル・小規模・大規模取り混ぜてあり過去経験したなかで最上級のものであったことを企画された皆様に感謝申し上げます。

以上